

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム やまもも

ユニット名 もも棟

自己評価実施年月日 平成 20 年 6 月 26 日

記録者氏名 井上 勝子

記録年月日 平成 20 年 6 月 26 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分達がこの地区で働くことで地域の為に何ができるか考え、利用者が地域住民の一員として自分らしく幸せに生活できるようにと新しく理念を作成し、念頭においてケアにあたっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会やカンファレンス時に職員一人ひとりが自分なりに理念をとらえ、どのように取り組んでいきたいか話し合い、ホーム全体が理念というひとつの目標にむかって取り組んでいける様努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民に対して運営推進会議の時にホームで取り組んでいる事の報告をしたり、ホーム便りを回覧板にて回してもらいホームでの暮らしや理念を理解して頂けるよう努めている。又、家族には毎月お便りを発行し、担当者が近状報告を書いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶等積極的にしている。又、地区の草刈や運動会に参加している。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。又、地域の行事（祭り、運動会等）に加入し、地域との交流に努めている。	地域住民の方にホームの方に来て頂ける行事、催し等考えていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、具体的な活動、取り組みは行っていない。	○	何らかの形で地域に貢献していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義についてスタッフ会で職員に周知徹底し、内容は次回のスタッフ会にて報告し、今後の介護支援に活かす様取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た課題、提案はスタッフ会にて話し合い、サービス向上に活かすと共に、その結果を次回の運営推進会議にて報告している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、サービスの質の向上を図る為に市町村とその都度連絡をとり、質問を受けってもらったり、課題解決を図っていけるよう連体をとっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護を利用されている利用者がおられるので、社協や市役所の職員に問い合わせや相談をし、学んでいる。その学んだ内容を他に必要な利用者がいたら利用出来る様玄関にパンフレットを置き、相談を受け付けている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	順に研修会に参加し、学んだ事をスタッフ会にて報告、全員で周知徹底することで虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書等で入居時に十分説明をし、不安、疑問点を聞き出している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度職員、及び管理者が聞き取り、毎日のカンファレンスにて対応策を話し合い、必要に応じて運営推進会議、家族に報告し、運営に反映させる様にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のお便りに担当者が日々の暮らしぶりを定期的に報告している。又、利用者の状態に応じて管理者が随時家族に報告している。金銭管理については毎月、使用用途、レシートを郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、第三者委員会も設置し、意見、苦情を受け付けている。又、家族の面会時や電話、ケアプランの交付時など何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、スタッフ会、ホーム内勉強会に随時、意見や提案を聞き、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者個々の状態に合わせて対応できるようローテーションを組んでいる。又、管理者はできるだけシフトに入らず、個人の希望に添った外出支援や、職員の急病、休みの時にシフトに入れる様な体制になっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係の中で援助、支援が出来る様にしている。又、離職、移動がある場合は新しい職員に一週間、ボランティアとして業務に入ってもらい、入居者の状態を把握してもらう様に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目標に、ホーム内で勉強会を開いたり、職員の立場、経験に応じ、各種研修会に積極的に参加している。又、研修の報告は月1回のスタッフ会にて発表し、全職員が実践で活かせる様にしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に加入し、定期的な勉強会にも参加し、管理者同士だけでなく、職員同士の交流も図っている。又、2ヶ月に1回は同系列のGH管理者会を開催し、勉強会、意見交換会を設け、よりよいホーム造りに活かしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス、悩みなどはその都度リーダー、管理者が聞き、把握、解消していける様に努めている		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会社は職員の研修会等率先して参加させたり、運営者がホームをまわり、職員の要望、希望等を聞き、話し合う機会をもっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談時にゆっくり時間をとり、困っている事、不安、希望等を聞くようにしている。又、事情が許せば本人に事前にホームを見学してもらい少しでも本人と話す機会を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の時間に合わせて面会時間を設定し、ゆっくり話を聞くようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、すぐに入居できない場合は他サービスの情報提供等をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来られる方は、見学に来られたときに一緒にレクに参加して頂いたり、入居者と一緒におやつを食べてもらうなどしている。入居前に見学に来られない方は、入居時、ご家族等と一緒に来て頂き、本人が慣れるまで再々面会にきて頂ける様に説明している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション、テレビ鑑賞など一緒に行い、日々生活していく中で、喜びや感動を共にし、人生の先輩として利用者から学んだり、支えあえる関係を築いていけるよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の介護方針を共有化し、家族の意見を踏まえた上で共に考え、職員、家族ができるだけ統一したケアを行う様になっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を設定しない等いつでも来て頂ける様な雰囲気作りを心がけている。又行事案内をし、積極的に来て頂ける機会を増やしている。外泊も自由である。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理、美容室に通い続ける事ができる様支援したり、友人、知人の面会も歓迎している。又、家族、友人に暑中見舞い、年賀はがき等を書いて頂けるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりを理解し、職員が間に入り、話題の提供をする様にしたりし、利用者同士の関わり合い、支え合いができる様努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移った利用者に対し、仲の良かった利用者が会いに行く支援等をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握した上で希望、意向を聞き出すように努めている。又、日々の暮らしの中でふと出た希望、意向を記録の中に書きとめ、ケアプラン作成に活かす様に心がけている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で、本人、家族から情報を得たり、入居前の担当ケアマネージャーから本人、家族の同意を得て情報を得るようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護経過に個別に記録し、全職員が把握しやすい様にしている。又、担当職員を決め、細かな配慮をしている。担当職員を中心とした毎日のカンファレンスの中でより細かな援助方法の徹底などを話し合っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居前の面接時、又は随時、家族や本人に希望を聞き、担当職員を中心としたカンファレンスを行い、本人、家族の希望、意向を積極的に取り入れたケアプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定期間の見直しを行うと共に、利用者の状態に変化があった時はその都度担当職員、ユニットリーダー、計画作成担当者と共に家族、本人の希望を取り入れたケアプランを作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	具体的にどういう風に協働したらいいのか知りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前に事前に家族と十分情報交換を行い、使い慣れた道具を持ってくる、家族に再三面会に来てもらう等している。又、ホームより別の場所へ移られる場合は、本人、家族の了解を得て、サマリー、ケアプラン等にて情報交換を行っている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ホーム内勉強会にて守秘義務について勉強し、職員に周知徹底している。又、日頃の声掛けや対応についても職員同士お互いに気をつける様になっている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりが出来る限り自分で選択し、納得した生活ができる様、その都度個人に合わせた対応をしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりのその日の状態に合わせてケアをしている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけの理、美容室のある人は入居後も通いつづけることができる様家族に協力をお願いしたり、職員が付き添いをしている。又、その日に着る洋服を本人に選んでもらったりしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し、家族が承諾すれば少額のお金を持ってもらっている。本人希望時、買い物に行く支援をし、その際、金銭の支払いは出来るだけ本人にして頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気分に合わせて出来るだけ外出できる機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の何気ない会話の中から行きたい場所等の希望を聞き出し、個別、又は集団で出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、手紙の返事を書く等の援助を行っている。又、家族、友人からの電話も歓迎しており、子機を使用し、自室でゆっくり話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人の都合のいい時間に来て頂けるよう面会時間は設定せず、いつ来ても歓迎している。面会に来て頂いた時は自室でゆっくりと過ごして頂いている。又、遠方から来られた家族等には本人の自室で宿泊して頂いたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は拘束による身体的、精神的弊害に対して十分理解しており、拘束は行っていない。又、カンファレンスにて援助方法を話し合う際にも拘束となっていないかその都度確認している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	入居時、又は利用者の状況に応じてその都度家族に説明し、家族の希望もとり入れて対応策を話し合っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	その日の入浴担当職員がバイタルチェックを行い、入浴時の全身状態と合わせて異変の早期発見に努めている。状態変化がある時はすぐ訪問看護ステーションNSに連絡し、受診等の対応をしている。又、週1回訪問看護ステーションNSが訪問し、バイタルチェックを行い異変の早期発見に努めている。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	薬の説明書は一人ひとり個別カルテにはさみ、職員がいつでも確認出来る様にしている。薬の変更があった場合はNSに報告し、起こりうる副作用について説明を受け、変わったことがあれば細かな記録を取りDrに相談している。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	こまめな水分補給、毎日の体操、極力食物繊維を取り入れる様にしている。排便困難時は3日間を限度として処方されている緩下剤を服用して頂き、排便がある様に援助している。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	口腔内の汚れは誤嚥性肺炎につながる事を職員が自覚し、利用者個人の力量にあわせ、口腔ケアを行っている。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	チェック表にて食事量、水分摂取量をチェックし、その都度個人に合わせて支援している。又7月に管理栄養士にカロリー、栄養バランスのチェック、病状に合わせた調理指導をしてもらう予定である。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	それぞれマニュアルを作成し、スタッフ会にて勉強し、周知徹底している。マニュアルは毎年、新しい情報を取り入れ、必要に応じてその都度作り直している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルに基づき、食材は毎日買い出しに行き、買いだめをしない。調理用具は遅出職員が夜ハイターで消毒している。又、週に1回冷蔵庫の在庫（賞味期限等）を確認すると共にエタノールで拭いて掃除している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームは静かな住宅街の中にあり、玄関脇の花壇には季節の花、野菜等を植えている。又、玄関にスロープを設置し、段差をなくして出入りしやすい様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした広めのフロアに壁には季節の折り紙や行事写真等を飾っている。廊下は回路式になっており、歩行練習に使い、疲れた時に座って休める様にベンチを置き、休みながら中庭が眺められる様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に座敷、ソファを設置している。又、廊下にベンチを設置し、共同空間の中で思い思いに過ごせる居場所作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前に愛着のある家具、道具を持って来て頂く 様に説明し、各部屋に持ち込んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	フロア内に温度計を置き、こまめに調節してい る。又、朝の掃除の際には全ての窓を開け、空 気の入れ替えを行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、脱衣所の手すりの設置、回路式廊下にて歩 行練習等をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレやお風呂場入り口に昔風のわかりやすい札 や暖簾をして対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭にウッドデッキがあり、春や秋にはプラス チックテーブルを外に出し、おやつを食べたりし ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の暮らしの中で何気なく言った言葉、行動の中で利用者個人の思いや願いを掴み、実現できる様記録に書きとめ、各ユニットのカンファレンスで話し合っている。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>毎日食事やおやつと一緒に食べたりする時などに一緒にゆったり過ごす様になっている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>ほぼ全ての利用者が自分のペースをもって生活している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員一人ひとりが個別に対応する様に心がけている事にて生き生きとした表情がみられる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>希望に応じて出かけている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>訪問看護ステーションと医療連携をし、健康、医療面など不安等随時対応している。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>出来る限り要望に答える様にしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいが ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない</p> <p>不安、心配事など随時聞くようにしている。又毎月の手紙での近状報告、ケアプラン更新時の手紙にいつでも心配事、希望の相談を受け付けている事を表している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>個室がある事にてゆっくり出来ると喜んで頂いている。</p>

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない 	地域代表の委員が区長さんからそれぞれ議長、議員さんに交代し、地域の理解者が徐々に増えつつある。
98	職員は、生き活きと働けている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②<u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 	それぞれに悩みはあるが、それぞれリーダー、管理者が聞くようにしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②<u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 	日々の言葉、態度から2/3くらいは満足して頂いているように思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②<u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない 	日々の言葉、態度から2/3くらいは満足して頂いているように思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設3年目を迎え、利用者のADL低下が目立ち始め、それに伴い、今までの様に戸外に出て行く活動が難しくなっている。けれども、グループホームを終の棲家として安心して利用して頂ける為にADL、身体機能が低下してもいつまでも自分らしく、楽しみをもって生活していける様に、ケアを提供している職員の質の向上を目指し、トランスファなどの実技方法や介護の基礎知識、ターミナルケアについてなどのホーム内での勉強を積極的に行っている。